
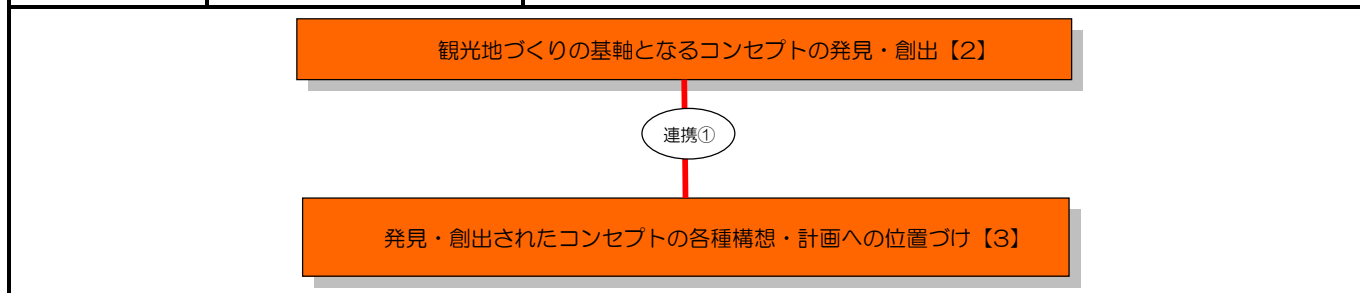


連携 ①	観光地づくりのコンセプトの発見と位置づけ  取組【2】【3】
	特徴的な事例 05-小野川温泉 14-豊後高田 15-安心院 16-黒川温泉



連携の狙い

○発見・創出したコンセプトを地域づくりの構想・計画に位置づける（組み込む）ことによって、すべての事業を地域コンセプトに沿った形で推進していく。

連携のポイント

○地域住民の創出したコンセプトの反映

・地域の観光計画の策定者が行政主体の場合が多く、地域住民が発見したコンセプトをそれらに反映できていないケースが多く見られる。計画や構想の内容に、地域住民によって創出されたコンセプトを反映させ、観光計画をより実情に即したものにすることが各種事業を実施する上で重要なポイントとなる。

○コンセプトを計画等に位置づけるための仕組みの構築

・地域住民（地域づくりを推進する団体、地域づくりに関心が高い住民）が発見したコンセプトを、構想・計画に組み込む手法としては、①構想・計画の枠組みはある程度行政が提示し、コンセプトは地域住民が提示するといった役割分担を図ること、②観光計画を作成するための組織構成の中に、あらかじめコンセプトを創出するチーム（地域住民等で構成）を組み込むこと、③創出したコンセプトを計画に位置づけるための仕組みを作ること等が考えられる。

○コンセプトの共有と意思統一

・観光計画策定の際にはコンセプトの共有や意思統一が重要である。そのための手法としては、例えば関係者全員でメールを活用することが有効である。これにより、①地域づくりの基本的な考えを随時メールにて発信にすることにより、関係者全員の意志統一を図ることができる、②前回会議の情報等を発信することで、参加できなかった人とも情報の共有化を図ることができる等のメリットがある。また、紙ベースでの資料配付等により情報が確実に届くように配慮するケースも考えられる。

期待される効果

○観光地づくりに関連する各種事業が地域住民の創出したコンセプトに即した形で実施される（地域イメージの定着に繋がる）。